

初版：2025 年 3 月 1 日

株式会社建泉舎

内装仕上げ材

ベルエポック

施工要領書

■ベルエポック塗装標準仕様

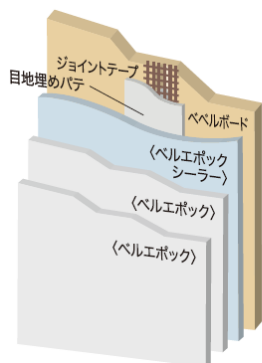
【施工部位】 内装

【適用下地】 石膏ボード・コンクリート・モルタル・スレート・塩ビクロス

【荷姿】 15kg/缶

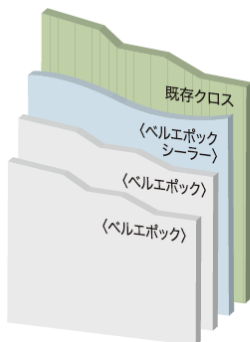
工程		処置要領および使用材料	標準使用量 (kg/㎡)	塗装方法	塗り重ね 乾燥時間
1	素地調整	エフロ・レイタンス・ゴミ・汚れ・などは除去し、乾燥した清浄な面とする。			
2	下塗り	ベルエポックシーラー	0.10~0.15	刷毛/ローラー	2 時間以上
3	上塗り (1 回目)	ベルエポック	0.10~0.20	刷毛/ローラー	2 時間以上
4	上塗り (2 回目)	ベルエポック	0.15~0.25	刷毛/ローラー	-

■施工手順



新築の場合（ベベルボード下地）

- 1 専用ビスでベベルボードが十分固定されていることを確認してください。
- 2 ボードジョイント部に目地埋めパテを埋め込み、余分な量はかき取ってください。
- 3 埋め込んだ目地埋めパテの上からジョイントテープを貼り付けてください。
- 4 目地埋めパテ乾燥後、仕上げパテを約0.3mmの厚さでジョイントテープが隠れるように塗り付け、平滑に仕上げて ください。
- 5 ベルエポックシーラーを全面に塗り付けてください。
- 6 ベルエポックシーラー乾燥後、上塗り材を全面に塗り付けてください。（1回目）
- 7 上塗り材（1回目）乾燥後、上塗り材を全面に塗り付け仕上げてください。（2回目）



リフォームの場合（塩ビクロス）

- 1 ゴミ・汚れなどは専用洗剤などで除去し、乾燥した清浄な面にしてください。
- 2 ベルエポックシーラーを全面に塗り付けてください。
- 3 ベルエポックシーラー乾燥後、上塗り材を全面に塗り付けてください。（1回目）
- 4 上塗り材（1回目）乾燥後、上塗り材を全面に塗り付け仕上げてください。（2回目）

■製品取り扱い上の注意事項（安全衛生他）

【施工時の注意事項】

○塗装時

- ・ シーラーレスでの施工はできません。シーラーは均一にしっかり塗りこむようにしてください。
- ・ 上塗りの先行刷毛塗りを行う際は、ナイロン刷毛を推奨いたします。獣毛刷毛を使用すると刷毛が直ぐに劣化します。
- ・ ロールヤーによって肌異なります。仕上げ肌を確認後、施工してください。
- ・ ロールヤーはマイクロファイバー系(毛丈 13mm)を推奨します。
- ・ ロールヤーは使用前に十分に余り毛を除去してください。
- ・ 仕上げ肌を確認後、施工してください。
- ・ 枠廻り・チリ・入隅等は、刷毛を通して仕上げるようにしてください。入隅にボンドコークを打っておくとクラック防止効果が高まります。
- ・ 塗装回数は2回以上を基本とします。
- ・ 上塗り（1回目）は、均一にEP塗りの感覚で塗装してください。タレ易いので注意してください。不均一な場合、2回目で吸い込みムラが発生することがあります。
- ・ 上塗り2回目は、ロールヤーに塗料をタツプリ含ませ、棒塗りで仕上げるようにしてください。
- ・ 上塗り2回目は、下層塗膜の影響を受け、水分の吸い込みが早いため、手早く仕上げるようにしてください。何度もロールヤーを当てると艶が変わったり、肌が荒れたり仕上がり悪くなる要因となります。
- ・ 上塗り2回目を塗装する際は、棒塗りで仕上げるため塗り残しが発生し易いので、塗り残しの無いよう注意して塗装してください。
- ・ 状況によって上塗り3回目塗装を行う場合は、2回目と同じ要領で行なってください。
- ・ 雨天などで湿度が高い場合、艶ムラが出やすいので、施工中、送風機などを使用するか、換気に配慮するようにしてください。
- ・ 他の塗料との混合は絶対に行わないでください。
- ・ 塗装時及び塗装後に高湿度環境下に晒されると、本来の仕上がり、機能を損なう恐れがありますので避けてください。
- ・ シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、剥離、収縮割れなどの不具合を起こすことがありますので、行わないでください。
- ・ 一般的な塗料と異なり、配合している消石灰の特性により、塗布直後の色付きより、乾燥後は白化し、色が落ち着きます。
- ・ 特に降雨時や高湿度環境下での施工時、ボードジョイント部に目地むら・乾きむらが生じやすくなりますが、乾燥に伴い目立たなくなります。

○補修について

- ・ 材料の特性上、若干の艶感や肌の変化は生じますが、比較的タッチアップが効きやすいです。状況に応じて対象箇所を簡易養生・研磨し、表面を滑らかにした後、パテ処理し、乾燥後、タッチアップしてください。

○塗料の調整

- ・ 開缶後、ハンドミキサーで十分にかくはんし、中身を均一な状態にしてから使用してください。希釈した際も同様にハンドミキサーでかくはんし、均一な状態にしてください。
- ・ 基本的に下塗りのプライマーおよび上塗り材(ベルエポック)に希釈水は不要ですが、状況により希釈する場合は3%までを目安としてください。

○下地の調整

- ・ ボード継部等の段差は、パテ等を用いて適切な処理を行い平滑にしてください。パテは十分に乾燥させてください。
- ・ 仕上げパテは、粉体パテの使用は避け、エマルジョンパテを使用してください。
- ・ クロスの上に塗装する場合は、事前に浮きや剥がれ、継ぎ目のメクレなどが生じていないか確認し、不具合箇所は適切な処理を行い補正してください。処理が不十分な場合、仕上がり塗膜に影響を及ぼす事があります。
- ・ 被塗装物がヤニなどで汚れている場合は、中性洗剤などで十分に汚れを除去し、よく乾燥させてからシーラーを塗付してください。必要に応じてアク止めシーラーを使用してください。

○養生

- ・ 施工面以外に塗材が付着しないよう養生テープ・ビニールシート等で十分に養生してください。本製品は強アルカリ性のため、特に木材に触れるとアクが発生します。
- ・ 消石灰の特性により、乾燥に伴い塗膜強度が増進し、養生テープの引張強度が弱い場合、養生テープが裂けてしまうので、塗装後速やかに養生を除去してください。数日経過してしまった場合は、カッター等を用いて養生テープを除去するようにしてください。
対策として、比較的引張強度の強いテープを使用するか、塗装直後、養生テープの際に目打ちなどを当て、縁切りしておくことで養生テープが裂けることなく剥がすことができます。

○材料の保管

- ・ 現場での材料保管は、室内、屋外ともシート掛けを行い、直射日光・凍結を防止し、高温（40℃以上）低温（5℃以下）での保管は避けてください。

○その他の注意事項

- ・ 低温（5℃以下）及び高湿度（85%以上）の場合は、施工を避けてください。
- ・ 冬期、採暖する場合、石油ストーブは避け、電気ストーブを使用してください。（化石燃料の場合、塗膜が黄変する恐れがあります）
- ・ 腐食回避のため、アルミとの接触は避けてください。
- ・ 他の塗料との混合、塗装用具の共有は絶対に止めてください。強アルカリのため、材料が変質します。
- ・ 上記塗り重ね乾燥時間は目安なので、条件により乾燥時間は異なります。
- ・ 新設コンクリート面のアルカリ度はp H10 以下の条件で塗装してください。
- ・ 布クロス、紙クロス、防汚加工塩ビクロス、可塑剤が多く含まれる塩ビゾル鋼板、塩ビラミネート、プラスチック、ゴムパッキン、合成皮革等には塗装できません。
- ・ 本品取り扱い中は、十分な換気をしてください。特に低温時、密閉状態での施工は避けてください（光沢ムラが発生する場合があります）。
- ・ 子供の手が届かないところに保存し、誤飲、誤食をしないようご注意ください。

○施工後の注意事項

- ・ 施工後の塗膜表面は、しっくい特性により、汚れが付きやすくなります。手垢など擦れ汚れなどの軽微な汚れは、メラニンスポンジや#400 程度のサンドペーパーを用いて対象箇所を軽く研磨することにより除去できますが、この場合、その部位の艶感や肌が変わる事があります。尚、研磨作業の際には、削り粉が目に入らないよう保護メガネ・防塵マスクなどの保護具を着用してください。
- ・ 施工後の塗膜表面に醤油やコーヒー・お茶など着色液体の飛沫が付いた場合、通常の EP 塗膜などに比べ、しっくい特性上吸い込み易く塗膜内部まで浸透してしまうため、中性洗剤や水拭きによる汚れの除去は困難となります。この場合、簡易養生・研磨の上、本品を用いて1 ～ 2 回補修塗りを行ってください。但し、補修塗りした部位の艶感や肌が変わりますのでご注意ください。
- ・ タバコや線香の煙成分にて塗膜が黄変する場合がありますのでご注意ください。

【ご使用上の注意事項】

○予防策

- ・ 取り扱い作業中・乾燥中ともに換気のよい場所で使用し、粉じん・ヒューム・ガス・ミスト・蒸気・スプレーを吸入しないこと。必要な保護具（帽子・保護めがね・マスク・手袋等）を着用し、身体に付着しないようにすること。
- ・ 吸入に関する危険有害性情報の表示がある場合、有機ガス用防毒マスク、又は、送気マスクを着用すること。又、取り扱い作業場所には局所排気装置を設けること。
- ・ 皮膚接触に関する危険有害性情報の表示がある場合、頭巾・えり巻きタオル・長袖の作業着・前掛を着用すること。
- ・ 本来の目的以外に使用しないこと。
- ・ 指定材料以外のものとは混合（多液体の混合・希釈等）しないこと。
- ・ 缶の取っ手を持って振ったり、取っ手をロープやフックで吊り下げたりしないこと。
- ・ 取り扱い後は、洗顔、手洗い、うがい、及び、鼻孔洗浄を十分行うこと。
- ・ 使用済みの容器は、火気、溶接、加熱を避けること。

○対応策

- ・ 目に入った場合：直ちに、多量の水で洗うとともに医師の診察を受けること。
- ・ 皮膚に付着した場合：直ちに拭き取り、石けん水で洗い落とし、痛みや外傷等がある場合は、医師の診察を受けること。
- ・ 吸入した場合：空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けること。
- ・ 飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。
- ・ 漏出時や飛散した場合は、砂、布類（ウエス）等で吸い取り、拭き取ること。
- ・ 火災時には、炭酸ガス、泡、又は、粉末消火器を用いること。

○保管

- ・ 指定容器を使用し、完全にふたをして湿気のない場所に保管すること。
- ・ 直射日光、雨ざらしを避け、貯蔵条件に基づき保管すること。
- ・ 子供の手の届かない場所に保管すること。又、関連法規に基づき適正に管理すること。

○廃棄

本品の付いた布類や本品のかす、及び、使用済み容器を廃棄するときは、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処分すること。（排水路、河川、下水、及び、土壌等の環境を汚染する場所へ廃棄しないこと。）

以上